

## 平成 29 年度「インターネットについてのアンケート」調査結果について

本調査は、児童生徒の学校の授業以外におけるインターネットの利用実態と保護者の意識を把握し、児童生徒への指導や保護者への啓発活動推進の参考に資するため実施した。

現在、インターネットを利用できる様々な情報通信機器が普及しているため、調査対象とする機器は、携帯電話、スマートフォン、メディアプレイヤー、ゲーム機、パソコン（タブレットを含む）とした。

本調査は、平成 18 年度より隔年で実施してきたが、児童生徒を取り巻くインターネット環境の変化やインターネットに関わる問題の増加を鑑み、平成 24 年度以降毎年実施している。

### 【調査対象および回答数】

調査対象	学校数	有効回答数	
		児童生徒	保護者
小学校(4～6 年)	12 校	952	851
中学校	13 校	1,066	832
高等学校	16 校	1,496	1,010
合 計	41 校	3,514 (有効回答率 88.8%)	2,693 (有効回答率 69.1%)

### 【調査の実施時期】 平成 29 年 7～8 月

### 【目次】

本調査において、「機器」とは「インターネットを利用できる機器」のことをいう。

携帯電話、スマートフォン、メディアプレイヤー（iPod touch やウォークマンなど）、  
ゲーム機（DS や PSP など）、パソコン（タブレットパソコンを含む） など

1 「インターネットを利用できる機器」を使用している割合	P 2
2 機器の使用開始時期	P 2
3 機器の使用場所	P 3
4 利用しているインターネットの機能	P 3
5 平日の機器の使用時間と使用時間帯	P 4
6 保護者との約束事	P 5
7 フィルタリング	P 6
8 「機器」を利用して経験したこと	P 7
9 インターネットを利用して「やり取り」する相手	P 8
10 「インターネットを利用できる機器」の使い方を振り返って	P 9
11 インターネットで「いやな思い」をしたとき誰に相談するか	P 10
12 自分に「ネット依存の傾向がある」と思うか	P 11
13 総括（課題と対策）	P 11

# 1 「インターネットを利用できる機器」を使用している割合

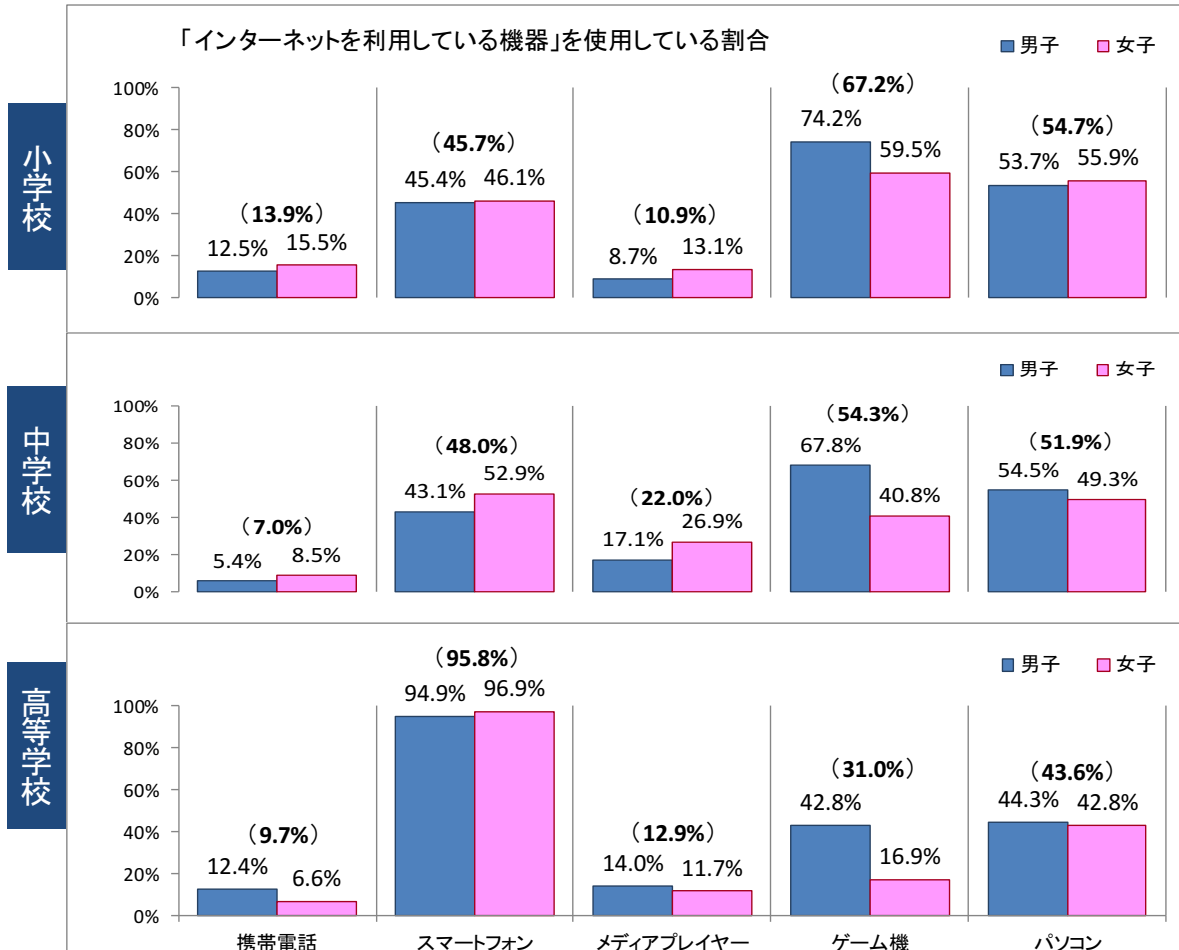
○ 学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した児童生徒の割合

※小中高校生全体に占める割合

小学生	中学生	高校生
85.2%	93.1%	98.2%

※学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高校生に占める割合（複数回答）

※（ ）内 は男女合計の割合



- ・小中学生がスマートフォンを使用している割合が急増。
- ・メディアプレイヤーやゲーム機を使用している割合は小中高校生とも減少。

【スマートフォンを使用している割合】

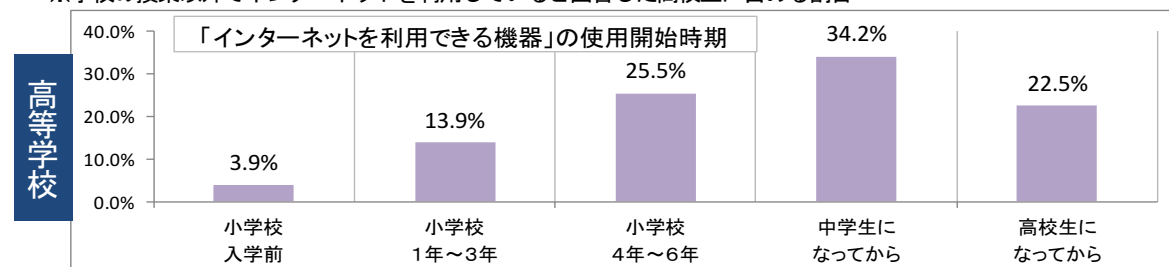
小学生：H27 年度 28.4% → H28 年度 40.6% → H29 年度 45.7%

中学生：H27 年度 27.2% → H28 年度 44.8% → H29 年度 48.0%

高校生：H27 年度 90.3% → H28 年度 93.0% → H29 年度 95.8%

## 2 機器の使用開始時期

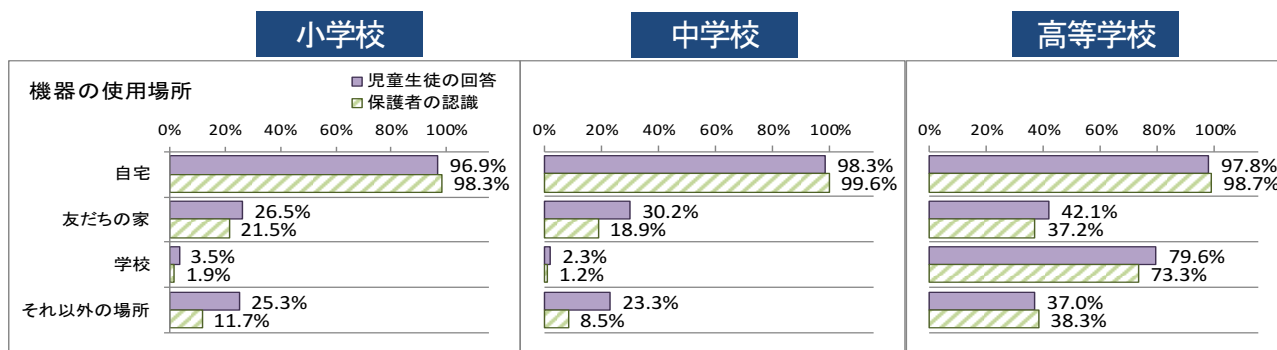
※学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した高校生に占める割合



- ・高校生のうち 43.3%の生徒が、中学校入学までに機器の使用を開始している。

### 3 機器の使用場所

※学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高校生とその保護者に占める割合（複数回答）

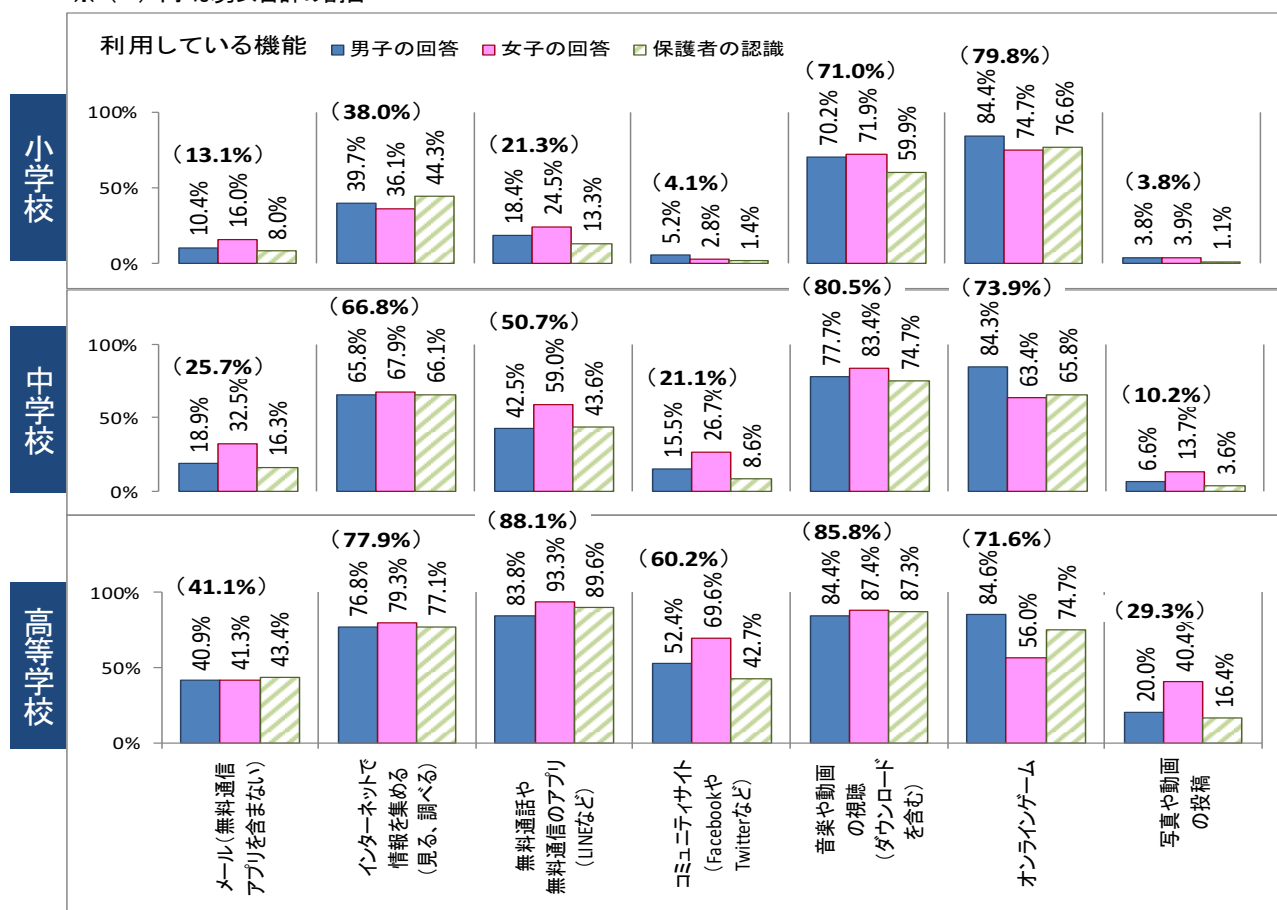


- ・自宅以外の使用場所については、児童生徒の回答と保護者の認識に差がある。  
（特に、小中学生の「友だちの家」「それ以外の場所」での使用について大きな差がある。）

### 4 利用しているインターネットの機能

※学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高校生とその保護者に占める割合（複数回答）

※（ ）内 は男女合計の割合



- ・どの年齢（学年）においても、「コミュニティサイト」や「写真や動画の投稿」について、児童生徒は保護者の認識以上に利用している。
- ・「コミュニティサイト」「写真や動画の投稿」については中高年生で女子の利用が多い。

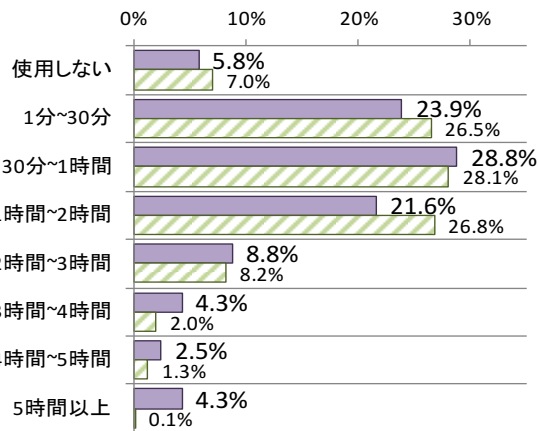
## 5 平日の機器の使用時間と使用時間帯

### ○ 平日の使用時間と学習用の使用時間

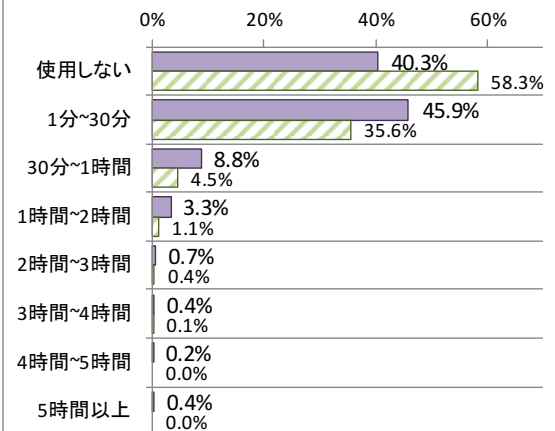
※学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高年生とその保護者に占める割合

#### 小学校

平日の使用時間 ■ 小学生の回答 ■ 保護者の認識

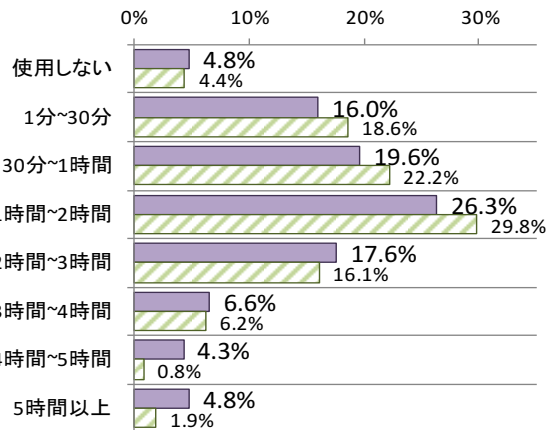


うち学習用の使用時間 ■ 小学生の回答 ■ 保護者の認識

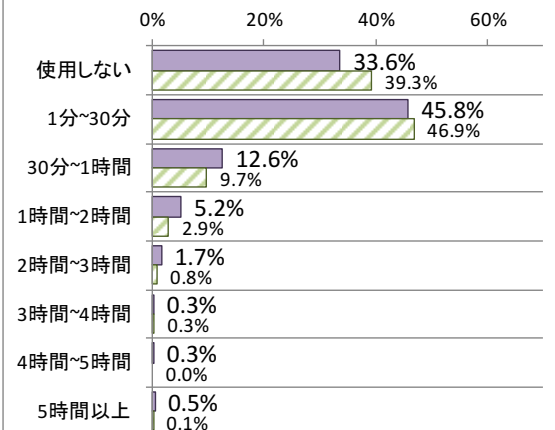


#### 中学校

平日の使用時間 ■ 中学生の回答 ■ 保護者の認識

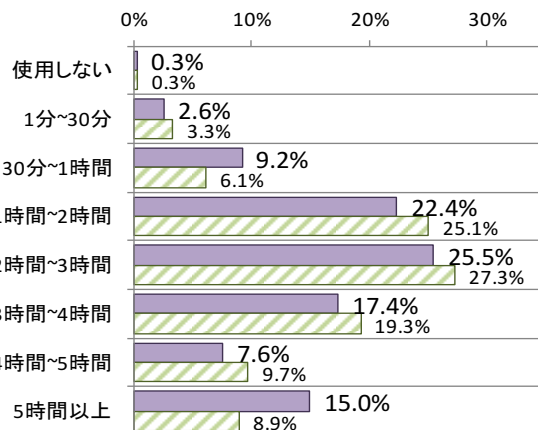


うち学習用の使用時間 ■ 中学生の回答 ■ 保護者の認識

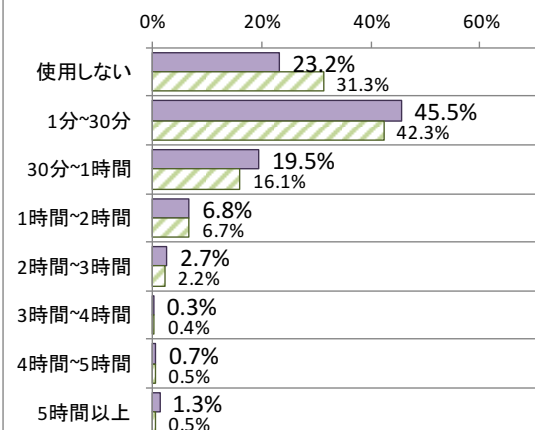


#### 高等学校

平日の使用時間 ■ 高校生の回答 ■ 保護者の認識



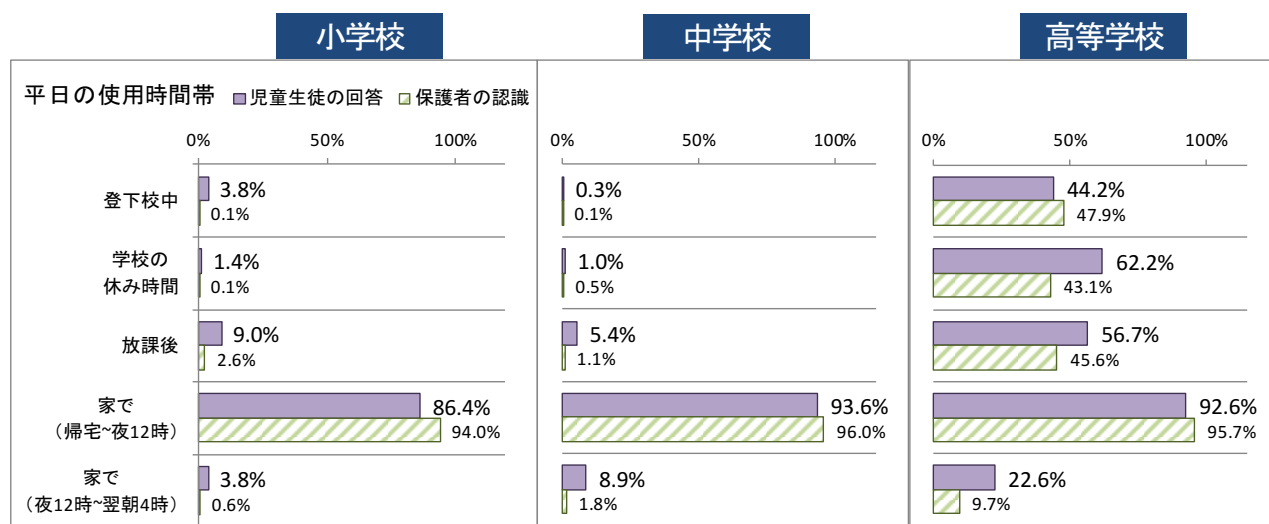
うち学習用の使用時間 ■ 高校生の回答 ■ 保護者の認識



- ・ 平日1日の使用時間は、児童生徒の年齢（学年）が上がるにつれて長くなる傾向にある。
- ・ 児童生徒は保護者の認識以上に機器を長時間使用している。（3時間以上の利用を比較）  
小学生 11.1%（保護者：3.4%） 中学生 15.7%（保護者：8.9%） 高校生 40.0%（保護者：37.9%）
- ・ 平日の使用時間のうち「学習用の使用時間」は30分未満が最も多く、保護者もその状況を認識している。  
学習利用30分未満…小学生 86.2%（保護者 93.9%） 中学生 79.4%（保護者 86.2%） 高校生 68.7%（保護者 73.6%）

## ○「学習用以外での」平日の使用時間帯

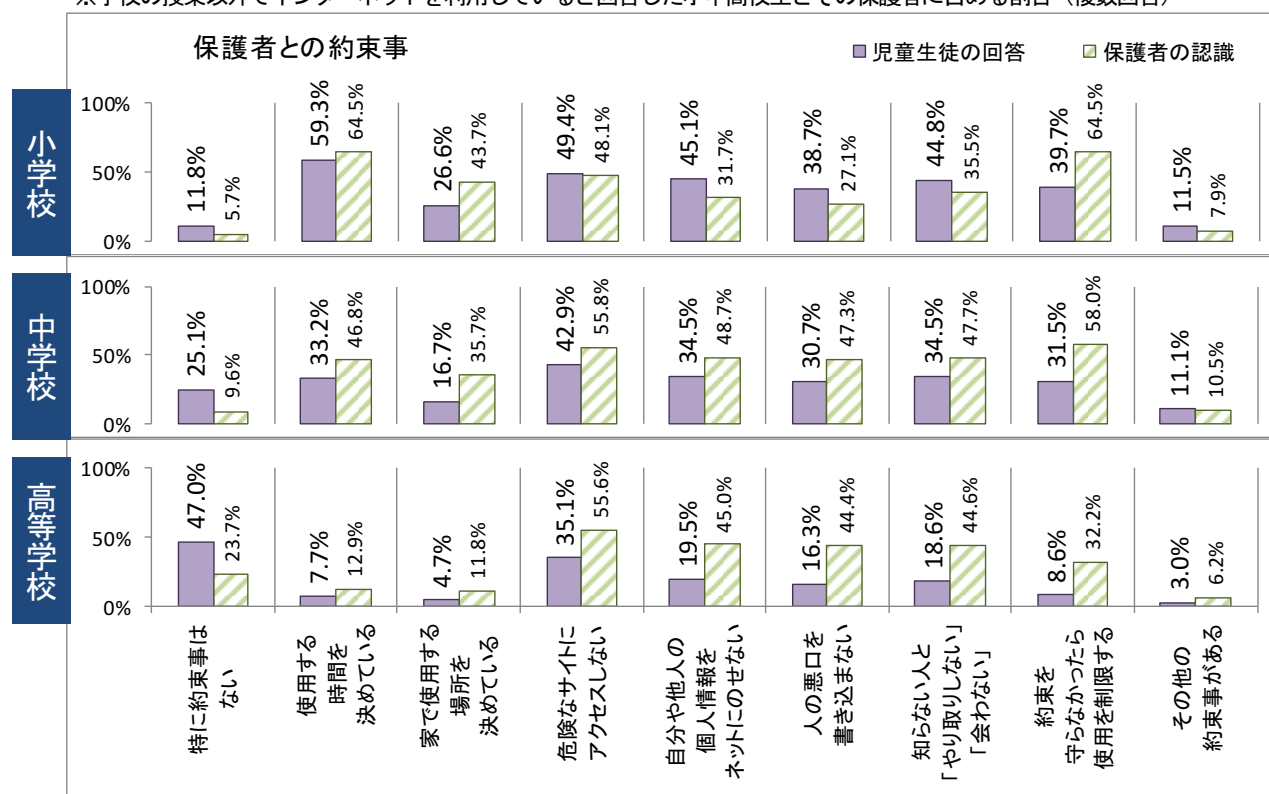
※学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高生とその保護者に占める割合（複数回答）



- ・学習用以外の目的で、中学生の約1割、高校生の約2割が「夜12時～翌朝4時に利用」と回答している。

## 6 保護者との約束事

※学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高生とその保護者に占める割合（複数回答）



- ・「特に約束事はない」など、約束事に対する児童生徒の回答と保護者の認識に大きな差がある。
- ・「危険なサイトにアクセスしない」「自分や他人の個人情報をネットにのせない」「悪口を書き込まない」といった情報モラルに関わる約束事や、知らない人と「やり取りしない」「会わない」といったネットの危険から自分自身を守るための約束事について、児童生徒の年齢（学年）が上がるにつれて児童生徒と保護者の認識に大きな差がある。
- ・昨年度との比較から、中学生と保護者の認識の差が大きくなった。  
「危険なサイトにアクセスしない」… ……H29年度 12.9ポイント(H28年度 10.6ポイント)  
「自分や他人の個人情報をネットにのせない」…H29年度 14.2ポイント(H28年度 10.9ポイント)  
「悪口を書き込まない」… ……H29年度 16.6ポイント(H28年度 12.0ポイント)

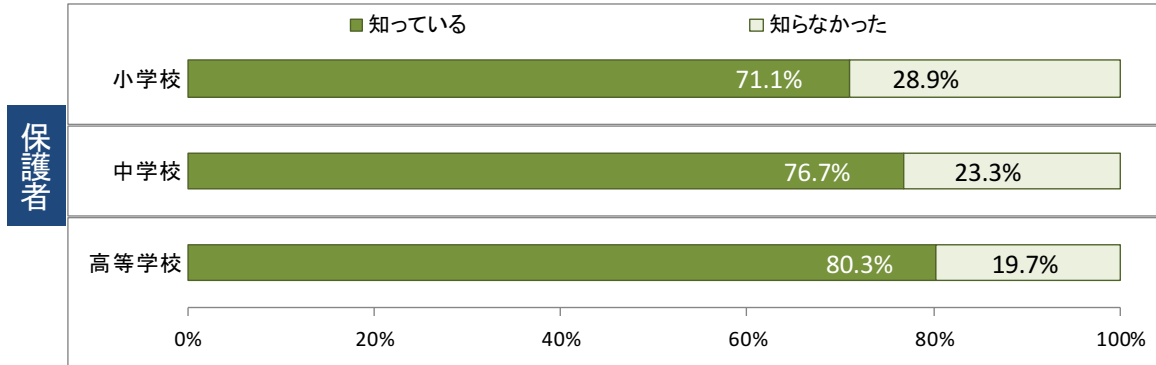
## 7 フィルタリング

### ○「フィルタリングに関わる保護者の責務」についての保護者の認識

#### 【質問内容】

青少年(18 歳未満)が使用する「インターネットに接続できる機器」にフィルタリングを利用するかどうかの判断について、法律では保護者の責務となっていることをご存知でしたか？

※学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高等学校の保護者に占める割合



・昨年度との比較から、小学生と中学生の保護者において青少年インターネット環境整備法の「保護者の責務」についての認知度は上昇している。

小学生保護者 71.1% (H28 年度 70.9%) 中学生保護者 76.7% (H28 年度 76.5%) 高校生保護者 80.3% (H28 年度 81.4%)

【参考】 青少年インターネット環境整備法 (平成 20 年 6 月 18 日法律第 79 号)  
(青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律)

(保護者の責務)

#### 第 6 条

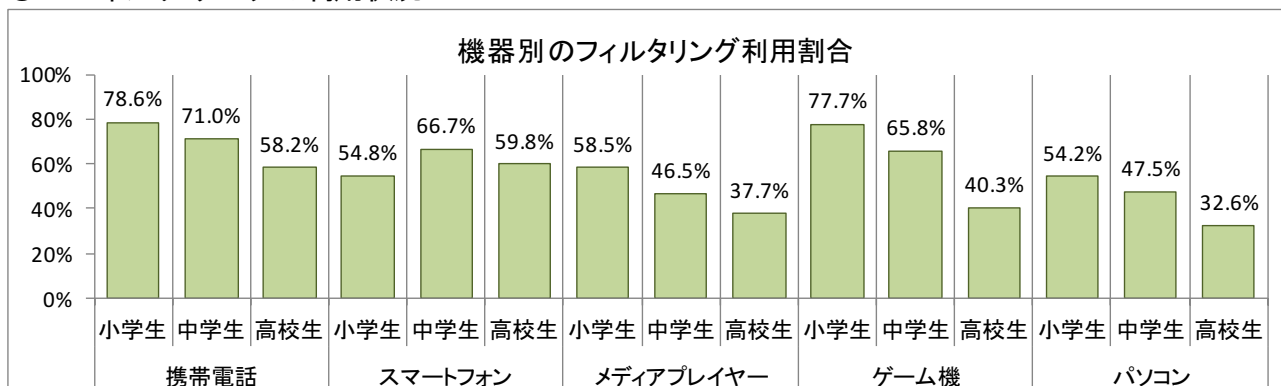
保護者は、インターネットにおいて青少年有害情報が多く流通していることを認識し、自らの教育方針及び青少年の発達段階に応じ、その保護する青少年について、インターネットの利用の状況を適切に把握するとともに、青少年有害情報フィルタリングソフトウェアの利用その他の方法によりインターネットの利用を適切に管理し、及びその青少年のインターネットを適切に活用する能力の習得の促進に努めるものとする。

(携帯電話インターネット接続役務提供事業者の青少年有害情報フィルタリングサービスの提供義務)

#### 第 17 条

携帯電話インターネット接続役務提供事業者は、携帯電話インターネット接続役務を提供する契約の相手方又は携帯電話端末若しくは PHS 端末の利用者が青少年である場合には、青少年有害情報フィルタリングサービスの利用を条件として、携帯電話インターネット接続役務を提供しなければならない。ただし、その青少年の保護者が、青少年有害情報フィルタリングサービスを利用しない旨の申出をした場合は、この限りでない。

### ○ フィルタリングの利用状況



・児童生徒の年齢（学年）が上がるにつれて、フィルタリングの利用割合は下がる傾向。

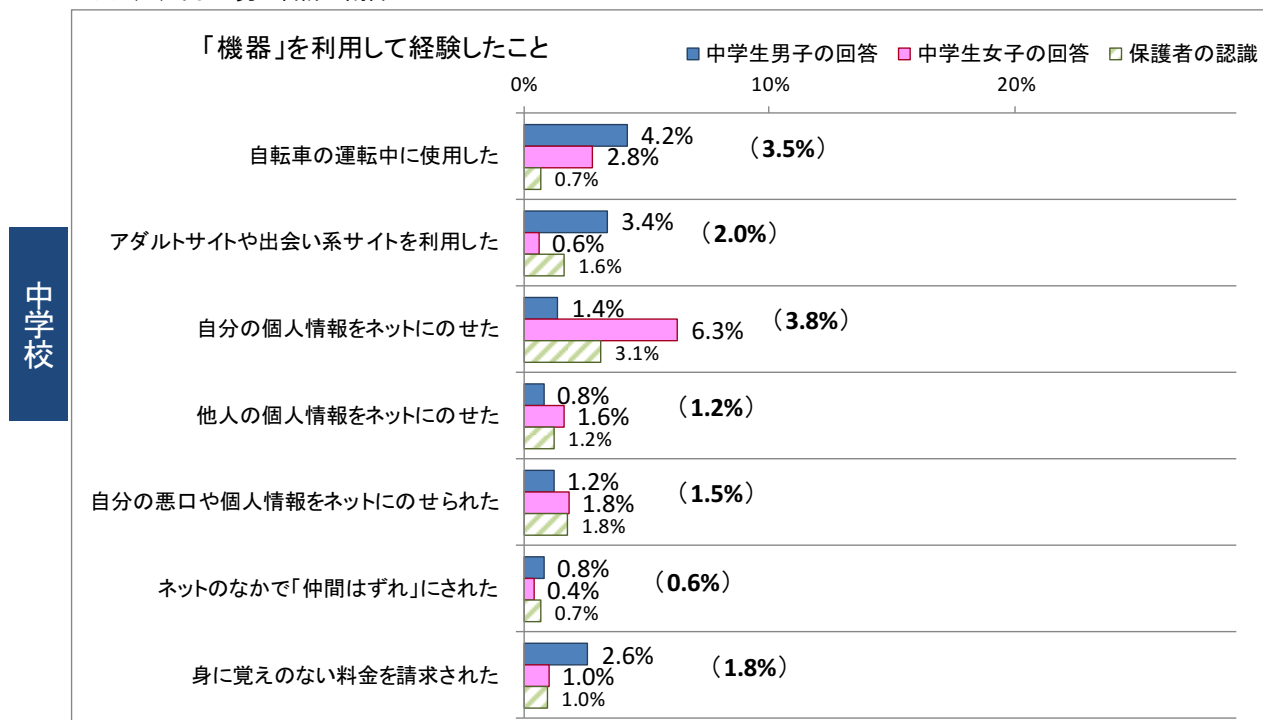
・パソコン（タブレットを含む）やメディアプレイヤーへのフィルタリングの利用割合が中高年生ともに低い。



## 8 「機器」を利用して経験したこと

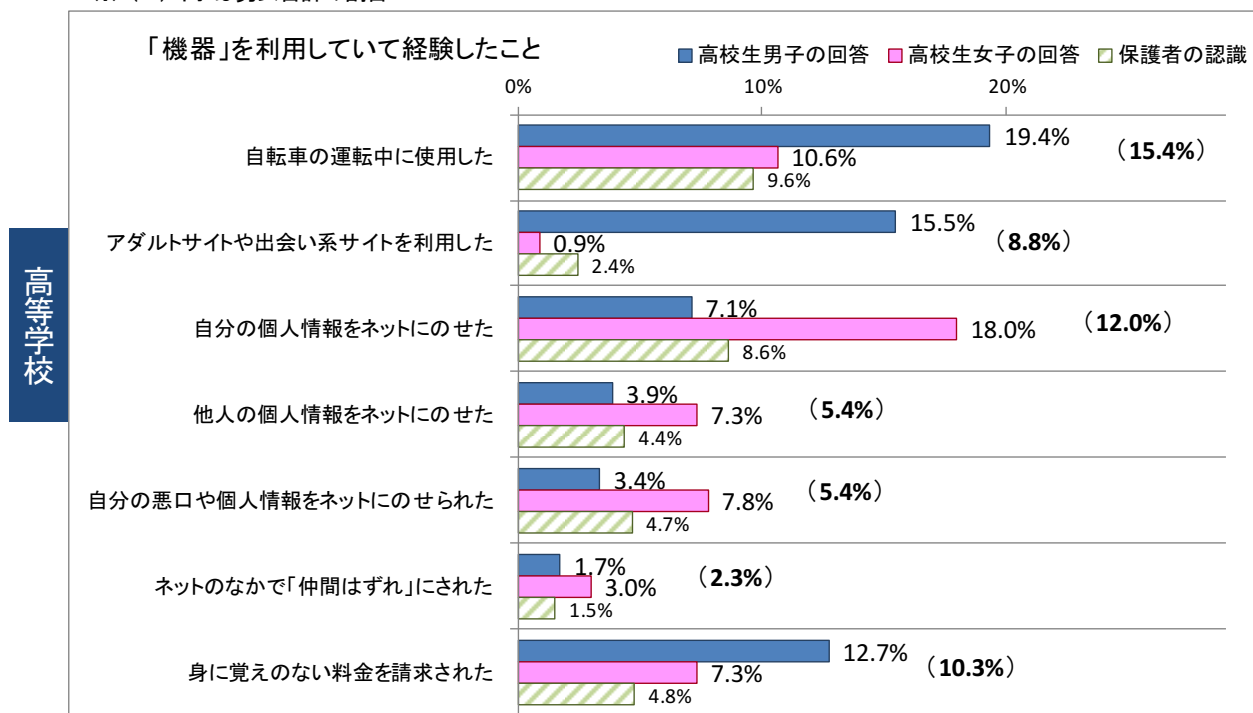
※学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した中学生とその保護者に占める割合（複数回答）

※（ ）内 は男女合計の割合



※学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した高校生とその保護者に占める割合（複数回答）

※（ ）内 は男女合計の割合



- ・男子は「自転車の運転中に使用した」「アダルトサイトや出会い系サイトを利用した」「身に覚えのない料金を請求された」などの回答の割合が多い。
- ・女子は、「自分の個人情報をネットにのせた」「他人の個人情報をネットにのせた」「自分の悪口や個人情報をネットにのせられた」などの回答の割合が多い。
- ・生徒の回答と保護者の認識に大きな差がある。

高校女子の18.0%が「自分の個人情報をネットにのせた」と回答。（保護者の認識は8.6%）

高校男子の15.5%が「アダルトサイトや出会い系サイトを利用した」と回答。（保護者の認識は2.4%）

高校男子の12.7%が「身に覚えのない料金を請求された」と回答。（保護者の認識は4.8%）

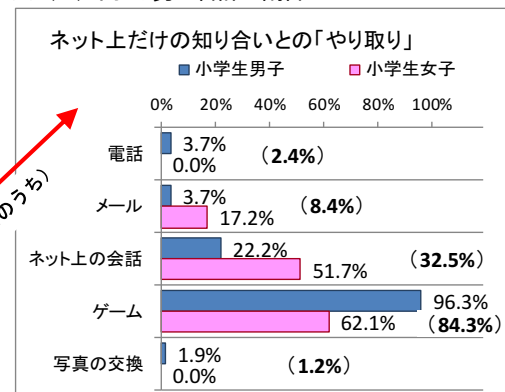
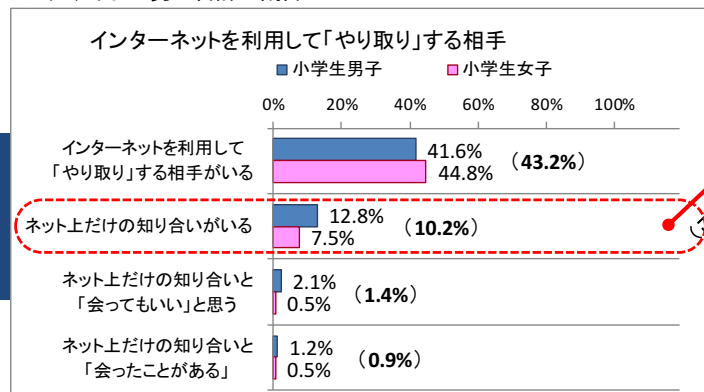
※本調査では、個人情報として「写真」「名前」「住所」「電話番号」を例示した。

## 9 インターネットを利用して「やり取り」する相手

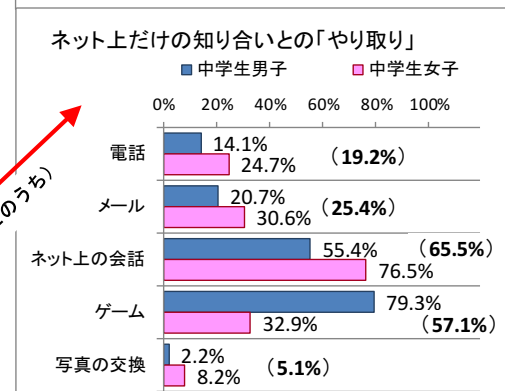
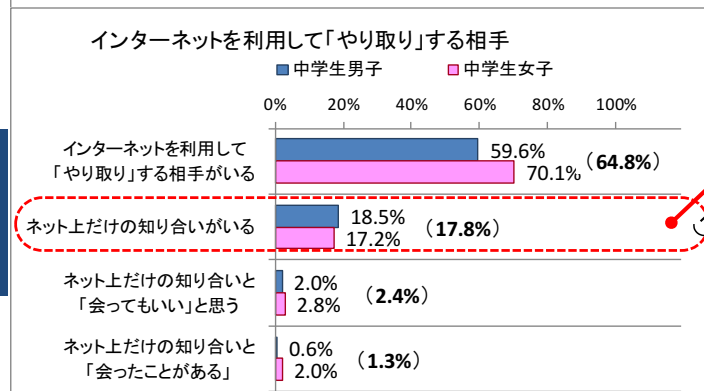
※学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した  
小中高校生に占める割合  
※（ ）内 は男女合計の割合

※ネット上だけの知り合いがいると回答した  
小中高校生に占める割合  
※（ ）内 は男女合計の割合

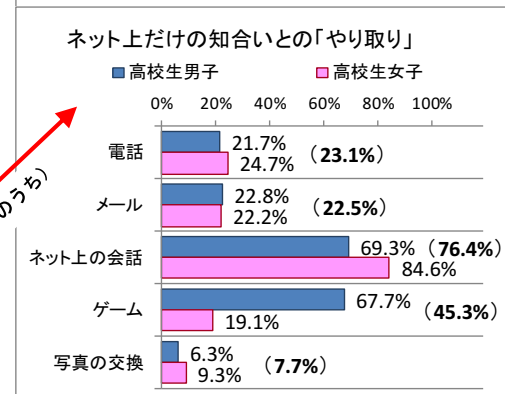
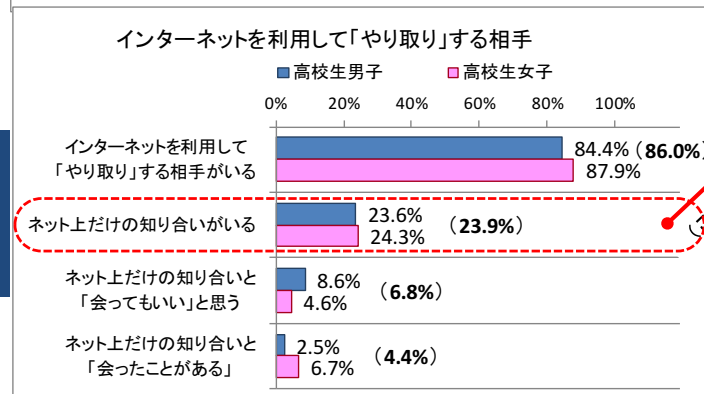
小学校



中学校



高等学校



- ・「ネット上だけの知り合いがいる」と回答した割合は、児童生徒の年齢（学年）が上がるにつれて増加している。

小学生 男子 12.8% (H28 年度 13.8%、H27 年度 9.9%) 女子 7.5% (H28 年度 6.2%、H27 年度 5.1%)  
中学生 男子 18.5% (H28 年度 18.2%、H27 年度 15.3%) 女子 17.2% (H28 年度 19.5%、H27 年度 15.7%)  
高校生 男子 23.6% (H28 年度 22.4%、H27 年度 22.7%) 女子 24.3% (H28 年度 26.4%、H27 年度 25.2%)

- ・ネット上だけの知り合いとの「やり取り」について、男子は「ゲーム」、女子は「メール」や「ネット上の会話」などコミュニケーションをしているという傾向がある。

- ・「ネット上だけの知り合いがいる」と回答した児童生徒のうち、その相手と「写真の交換をしている」と回答した児童生徒の割合は以下のとおり。

※（ ）内は、学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した児童生徒に占める割合

小学生 男子 1.9% (0.2%) 女子 0.0% (0.0%)  
中学生 男子 2.2% (0.4%) 女子 8.2% (1.4%)  
高校生 男子 6.3% (1.5%) 女子 9.3% (2.2%)

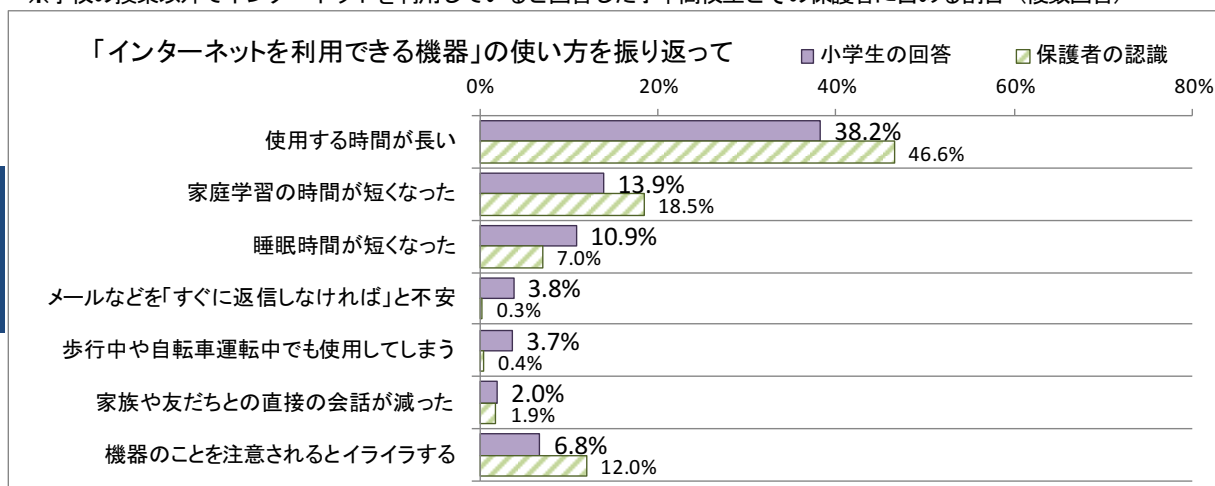
- ・ネット上だけの知り合いと「会ってもいいと思う」または「会ったことがある」と回答した児童生徒の割合は、年齢（学年）が上がるにつれて高くなる傾向。



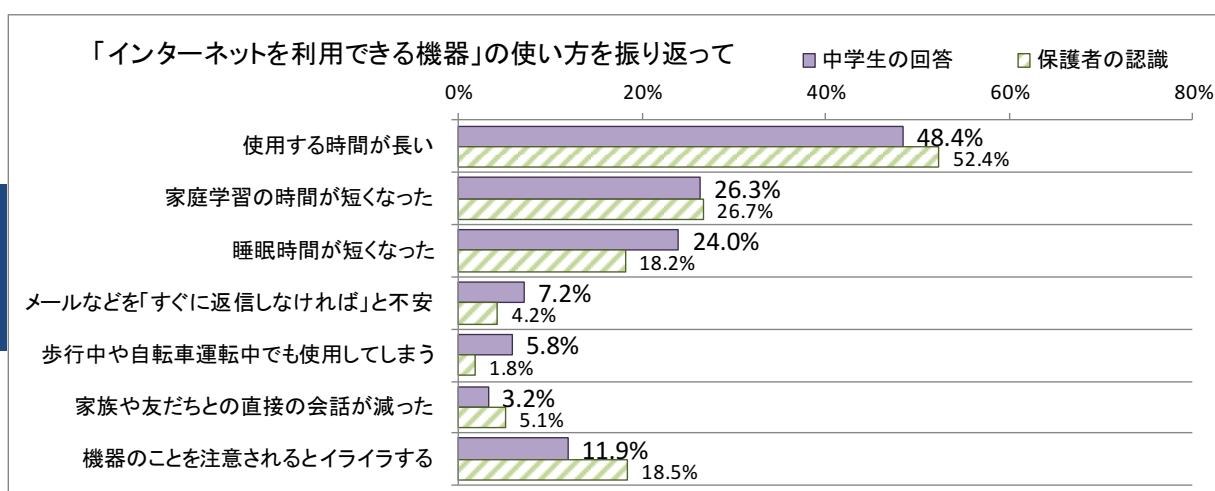
## 10「インターネットを利用できる機器」の使い方を振り返って

※学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高年生とその保護者に占める割合（複数回答）

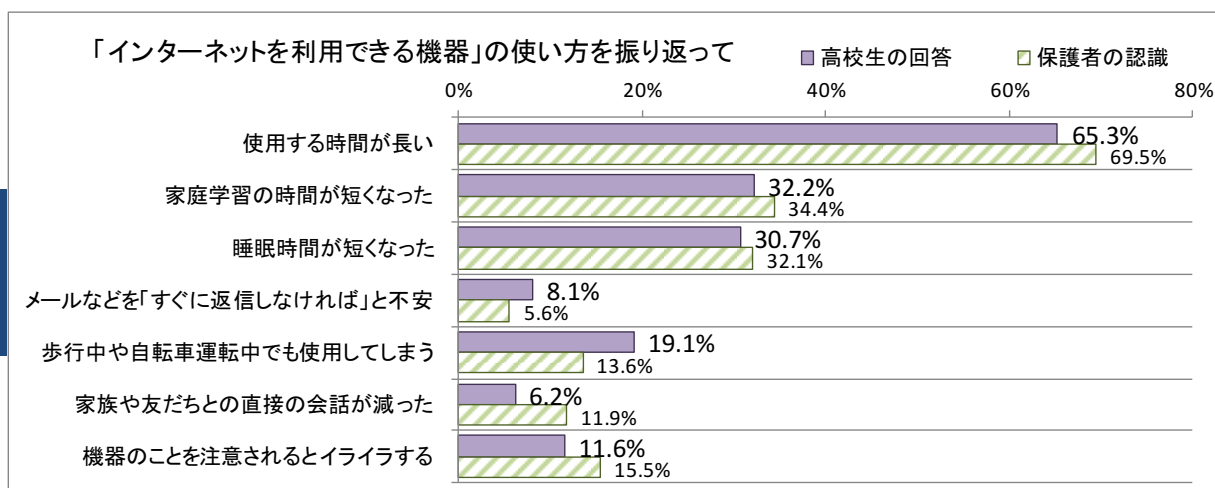
### 小学校



### 中学校



### 高等学校



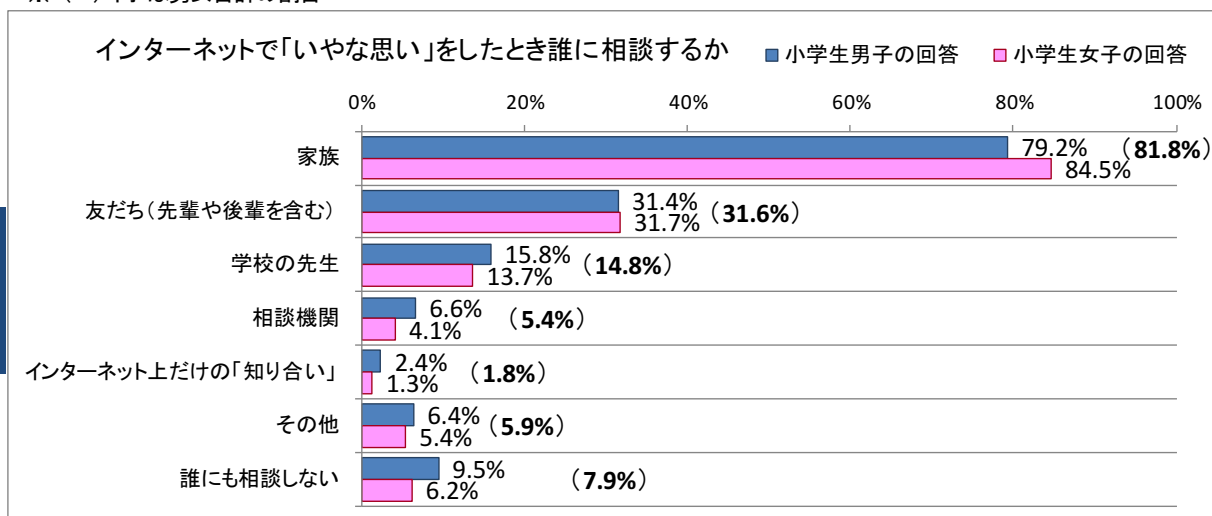
- ・多くの児童生徒が機器の使い方に対する問題点を認識しているとともに、保護者も同様に認識している。
- ・特に「使用する時間が長い」と感じている児童生徒と保護者の割合が高い。

## 11 インターネットで「いやな思い」をしたとき誰に相談するか

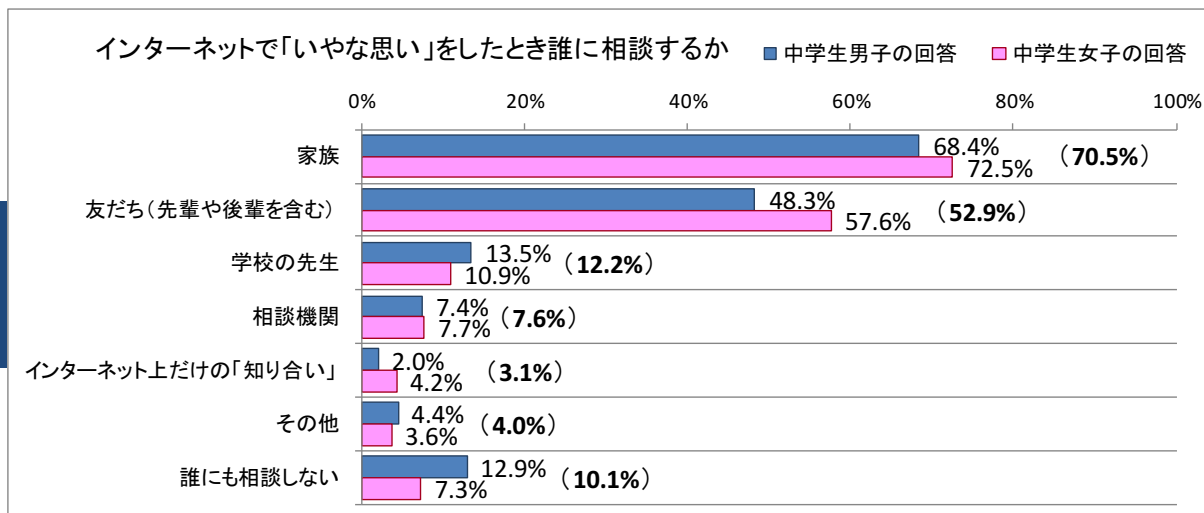
※学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高校生に占める割合（複数回答）

※（ ）内 は男女合計の割合

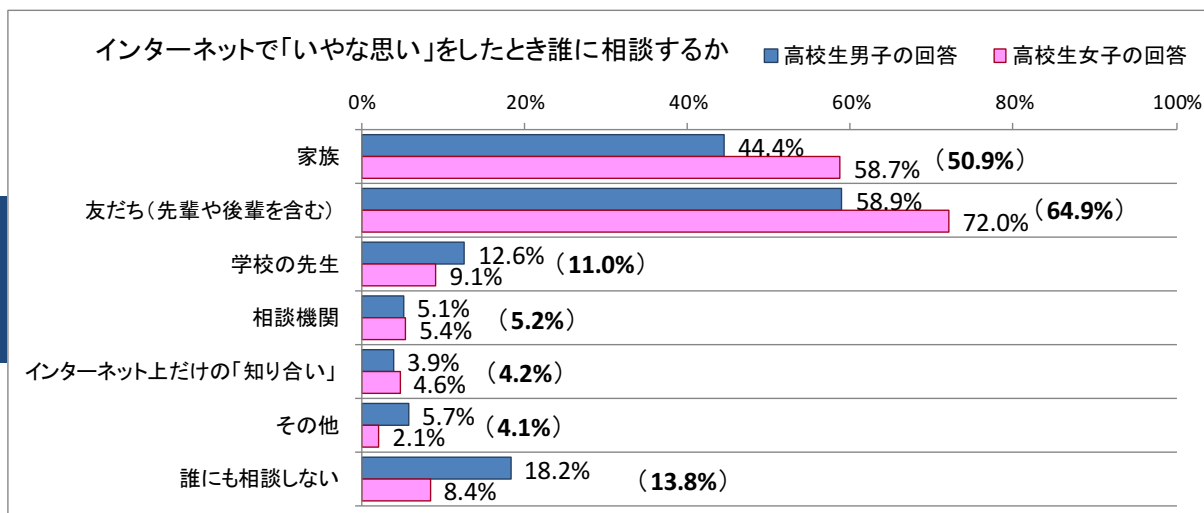
### 小学校



### 中学校



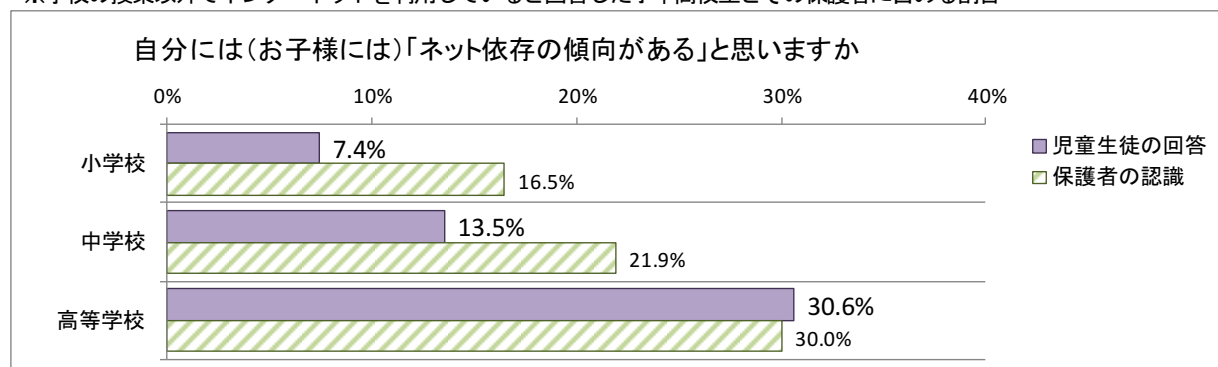
### 高等学校



- ・児童生徒の年齢（学年）が上がるにつれて、「家族」に相談する割合が減り、「友だち（先輩や後輩を含む）」に相談するという割合や、「誰にも相談しない」という割合が増加する。
- ・「誰にも相談しない」と回答した児童生徒の割合は、男子のほうが高い傾向。

## 12 自分に「ネット依存の傾向がある」と思うか

※学校の授業以外でインターネットを利用していると回答した小中高年生とその保護者に占める割合



- ・「自分にネット依存の傾向があると思いますか？」という質問に対し、児童生徒の年齢（学年）が上がるにつれて、ネット依存を認識する傾向がある。
- ・小中学生については本人の回答よりも保護者の認識のほうが高い。

## 13 総括

- 高校生のうち 43.3%の生徒が、中学校入学までに機器の使用を開始している。
- 児童生徒の利用する「インターネットの機能」や「機器を利用して経験したこと」には、年齢（学年）や男女で差がある。

⇒ 子どもの実態に合わせた情報モラル教育の推進

- 児童生徒の使用実態と保護者の認識に差がある。  
「自宅以外の機器の使用場所」「利用しているインターネットの機能」「機器の使用時間」「機器の使用時間帯」「機器を利用して経験したこと」など

⇒ 保護者への啓発活動の推進

- 多くの児童生徒が、「インターネットを利用できる機器」の使い方に対する問題点を認識。  
「使用する時間が長い」「家庭学習の時間が短くなった」「睡眠時間が短くなった」など

⇒ 「インターネットを利用できる機器」の適切な使用について、子どもたち自らが主体的に考える取組を推進

- インターネットで「いやな思い」をしたとき、小中学生は家族に相談する割合が高い。
- 年齢（学年）が上がるにつれて、「家族」に相談する割合が減り、「友だち（先輩や後輩を含む）」に相談するという割合や、「誰にも相談しない」という割合が増加する。

⇒ 「子どもたちが安心して相談できる体制づくり」を推進